

北九州市立美術館運営評価シート

評価項目A：資料収集・保存

計 画		実 施		検 証		今後の対策
具体的な取組(事務事業)	評価指標(点検項目)	目標(個別事務事業)	実 績	自己評価	課題・原因	
1 特色あるコレクション(収蔵作品)の形成	・ 美術作品の収集目的	① 自主企画展を計画している青柳喜兵衛や森山安英などの作品・関連資料を購入し、又は寄贈を受ける。	<ul style="list-style-type: none"> 青柳喜兵衛作品2点の寄贈を受けた。 購入・寄贈ではないが、福岡市美術館寄託資料のうち森山安英に関する資料の長期貸出しを受けた。 	目標どおり達成できた。	評価 A	リニューアルを機に新収集方針の策定に着手している。
		② 既存コレクションを充実するための作品・関連資料を購入し、又は寄贈を受ける。	<ul style="list-style-type: none"> 地元ゆかりの作家である築城則子の作品2点を購入した。 また築城則子、青柳喜兵衛、後藤愛彦、小松豊の作品計7点の寄贈を受け、既存のコレクションを補完した。 			
		③ 上記①②に係る対象作家や関係者との対面調査を行う。	<ul style="list-style-type: none"> 展覧会開催の対面調査 15件 作品・資料等の購入・寄贈の対面調査 3件 その他の対面調査 9件 田中丸コレクション展、見立ての手法展を始め、開催予定の展覧会のため全国各地で綿密な作品調査を行った。 さらに、新鋭作家をとりあげる新企画「guest room」のための作家研究や地元ゆかりの松野一夫の作品調査など、幅広い研究に着手することができた。 			
2 コレクション修復事業	<ul style="list-style-type: none"> 保存状態のチェック作品数 修復作品の数・内容 	④ 緊急性の高い作品から、1点以上の修復を行う。	<ul style="list-style-type: none"> 作品貸出し及び自主企画展出品作品の調査、収蔵庫改修に伴う調査を行った。 延べ4,022点の保存状態をチェックした。	昨年並みの作品チェックを行った。 また、30年度の自主企画展に向けて、青柳喜兵衛の代表作「天翔ける神々」を含む、作品2点の修復を行った。	評価 A	引き続き修復予算の必要性を丁寧に説明していくとともに、限られた予算内で次年度以降の自主企画展に向けた修復を計画的に進める。
			<ul style="list-style-type: none"> 修復作品 2点 青柳喜兵衛 「蔬菜図」1935 青柳喜兵衛 「天翔ける神々」1937 			
3 コレクションの保全対策	・ I P M導入に向けた取組み	⑤ 本館大規模修繕工事に際して、コレクションを一時保管するアネックス棟の市民ギャラリー等について、虫菌害対策を講じる。	<ul style="list-style-type: none"> 市民ギャラリーを所蔵作品の一時保管室とするための防犯措置及び燻蒸作業を行い、安全な保管環境を整えた。 作品搬入後はトラップや虫の侵入防止設備を整備するとともに、日常的に点検を行い、I P Mを実施した。 	目標どおり達成できた。	評価 A	リニューアルに向けて、作品移動計画を策定し、安全・確実に実施する。
				総合評価		
(評価) A：大変良い B：概ね良い C：やや悪い D：大変悪い				A		

北九州市立美術館運営評価シート

評価項目B：調査研究・展示

計 画		実 施		検 証		今後の対策	
具体的な取組(事務事業)	評価指標(点検項目)	目標(個別事務事業)	実 績	自己評価	課題・原因		
1 コレクションの活用や、自主企画展の開催	<ul style="list-style-type: none"> コレクションの活用 自主企画展の回数、内容 	① 福岡市美術館と共同で所蔵名品展を西日本6会場で開催する。	<ul style="list-style-type: none"> 福岡市美術館との共同巡回展「夢の美術館めぐりあう名画たち」が、沖縄県立博物館・美術館を皮切りに6会場の巡回がスタートし、当館の所蔵作品を県外の人々に広く紹介することができた。 	目標どおり達成できた。	評価 A	ザ・ベスト・コレクション展へ向けた準備を行うとともに、今後のコレクション展のテーマについて計画をたてる。 自主企画展については、継続して準備を進める。	
		② 自主企画展として、「田中丸コレクション展」「見立ての手法展」を開催する。	<ul style="list-style-type: none"> 分館にて自主企画展「九州古陶磁の魅力 田中丸コレクション展」「見立ての手法 岡崎和郎 Who's Who」を開催した。「見立ての手法」展は、美連協大賞奨励賞を受賞した。 				
2 コレクションや作家に関する研究内容について、紀要、図録、冊子、解説カード等にまとめ提供	<ul style="list-style-type: none"> 研究論文の公開件数 研究内容に関する図録、冊子、解説カード等の作成状況 	③ 発表媒体を問わず、各学芸員が研究成果を1回以上公開する。	<ul style="list-style-type: none"> 論文等発表件数 16件 口頭発表件数 16件 自主企画展の図録に論文等を発表したほか、共同企画展の図録や外部施設での展覧会図録に論文を掲載するなど、幅広い媒体で研究成果を発表することができた。また館外で口頭発表を行った。 	ほぼ目標とおりに達成できた。	評価 A	今後も引続き、自主企画展や共同企画展で図録を作成し、研究成果の発表を継続する。 また、当館発行物に限らず、研究成果の発表を心がける。	
		④ 自主企画展に係る図録を作成する。	<ul style="list-style-type: none"> 自主企画展に係る図録(2冊)を制作した。 				
3 他館と連携した調査研究や共同企画展の推進	<ul style="list-style-type: none"> 他館との連携の成果による展覧会数 	⑤ 千葉市美術館と共同企画した「見立ての手法展」を開催する。	<ul style="list-style-type: none"> 千葉市美術館との共同企画展「見立ての手法—岡崎和郎 Who's Who」を開催した。 	目標どおり達成できた。	評価 A	今後も積極的に、共同企画展を実施する。	
		⑥ 福岡市美術館と共同で所蔵名品展を西日本6会場で開催する。	<ul style="list-style-type: none"> 福岡市美術館との共同巡回展「夢の美術館めぐりあう名画たち」が、沖縄県立博物館・美術館を皮切りに6会場の巡回でスタートし、当館の所蔵作品を県外の人々に広く紹介することができた。 				
4 企画展等の充実	年間入場者総数 <ul style="list-style-type: none"> 企画展の観覧者数 市民ギャラリー、その他の観覧者数 	⑦ 幅広い作品の展覧会を開催し、多くの市民の来館を目指す。(目標入場者 150,000人)	<ul style="list-style-type: none"> 展覧会を充実させたが、目標入場者数には届かず、入場者総数は113,274人に留まった。 	本館及びアネックス棟の休館のため、入場者数が減少し、目標には届かなかった。	評価 B	休館中のため	リニューアル後も、企画展やコレクション展の充実を図っていく。併せて、市民ギャラリーの利用促進を図る。
				総合評価			
				A			

(評価) A：大変良い B：概ね良い C：やや悪い D：大変悪い

北九州市立美術館運営評価シート

評価項目C：教育普及・学習支援

計 画		実 施		検 証		今後の対策														
具体的な取組(事務事業)	評価指標(点検項目)	目標(個別事務事業)	実 績	自己評価	課題・原因															
1 小・中学校と連携した学習プログラムの実施	事業参加者数 ・美術鑑賞教室 ・館内授業 ・たんけんパスポート利用者	① 市内の小中学校や文化施設と連携した学習プログラムやワークショップを充実強化し、参加者数の目標を前年度以上とする。	<ul style="list-style-type: none"> 教育普及事業 <table border="0"> <tr> <td>小学生美術鑑賞教室参加者</td> <td>882人</td> </tr> <tr> <td>館内授業(中学生美術鑑賞教室)参加者</td> <td>221人</td> </tr> <tr> <td>(参考)館内授業(その他)参加者</td> <td>252人</td> </tr> <tr> <td>ワークショップ参加者</td> <td>7回 147人</td> </tr> <tr> <td>アウトリーチ参加者</td> <td>10回 541人</td> </tr> <tr> <td>たんけんパスポート利用者</td> <td>1,588人</td> </tr> <tr> <td>参加者合計(前年比△150人)</td> <td>3,631人</td> </tr> </table> 本館の休館に伴い、分館のみで学校団体を受け入れた。小学生美術鑑賞教室への参加者は前年よりやや少ないものの、参加校数は2校増加した。中学生美術鑑賞教室(教委主催)は3校増加した。 子ども向けワークショップでは、本館が休館した2015年9月以降に講堂が使用できなかったため、館外でのワークショップを多数実施した。とくにアウトリーチ事業では、前年度に引き続きリバーウォーク北九州を会場に4日間で多数の参加者を集めることができ、新たな活動場所の開拓ができた。 	小学生美術鑑賞教室参加者	882人	館内授業(中学生美術鑑賞教室)参加者	221人	(参考)館内授業(その他)参加者	252人	ワークショップ参加者	7回 147人	アウトリーチ参加者	10回 541人	たんけんパスポート利用者	1,588人	参加者合計(前年比△150人)	3,631人	分館では団体対応の作品解説ができないため、参加校が減少した。また、アウトリーチ事業では館外で多くの参加者を集めることができたが、たんけんパスポートの利用者は減少した。	休館中のため	リニューアル・オープン後に市内の全小学3年生を対象とした新たな鑑賞プログラムを実施する。平成29年度は、戸畑区と八幡東区を対象に試験実施する。 引き続き、たんけんパスポートの利用促進を図る。
				小学生美術鑑賞教室参加者	882人															
館内授業(中学生美術鑑賞教室)参加者	221人																			
(参考)館内授業(その他)参加者	252人																			
ワークショップ参加者	7回 147人																			
アウトリーチ参加者	10回 541人																			
たんけんパスポート利用者	1,588人																			
参加者合計(前年比△150人)	3,631人																			
<table border="1"> <tr> <td>評定</td> </tr> <tr> <td>B</td> </tr> </table>	評定	B																		
評定																				
B																				
2 幅広い年代に応じたワークショップや講演会などの教育普及プログラムの実施、成果の公表	<ul style="list-style-type: none"> ワークショップ、講演会の回数 	② 幅広い年齢層を対象にしたワークショップや講演会、ギャラリートークなどの教育普及プログラムを20回実施する。	<ul style="list-style-type: none"> 目標以上の26回の教育普及プログラムを開催した。 <table border="0"> <tr> <td>講演会</td> <td>6回</td> <td>1,049人</td> </tr> <tr> <td>ギャラリートーク</td> <td>20回</td> <td>837人</td> </tr> <tr> <td>参加者合計</td> <td>26回</td> <td>1,886人</td> </tr> </table> 	講演会	6回	1,049人	ギャラリートーク	20回	837人	参加者合計	26回	1,886人	目標どおり達成できた。		リニューアル後の新しい教育普及活動について、会場の選定も含めて見直しを進める。					
				講演会	6回	1,049人														
ギャラリートーク	20回	837人																		
参加者合計	26回	1,886人																		
<table border="1"> <tr> <td>評定</td> </tr> <tr> <td>A</td> </tr> </table>	評定	A																		
評定																				
A																				
				<table border="1"> <tr> <td>総合評定</td> </tr> <tr> <td>A</td> </tr> </table>		総合評定	A													
総合評定																				
A																				

(評価) A：大変良い B：概ね良い C：やや悪い D：大変悪い

北九州市立美術館運営評価シート

評価項目D：市民参画・連携

計 画		実 施		検 証		今後の対策
具体的な取組(事務事業)及び目標(施策)	評価指標(点検項目)	目標(個別事務事業)	実 績	自己評価	課題・原因	
1 ボランティア活動の見直し及び体制整備に向けた検討	・ 制度見直しに向けた他都市調査や検討状況	① 休館に伴いボランティア活動を一時休止し、他都市の制度を調査するなど制度見直し及び体制整備に向けた検討を行う。	<ul style="list-style-type: none"> 他館ボランティア調査 他館訪問 延べ8ヶ所 開館後の新しいボランティアを見据えた調査として、金沢21世紀美術館など他館の視察と担当学芸員への聞き取りを行い、新制度の参考例を得ることができた。 	目標どおり達成できた。	評定 A	
2 文化施設との交流・連携	・ 文化施設との連携事業の実施状況	② 市内文化施設と連携して、「北九州ミュージアムウィーク」を実施する。	<ul style="list-style-type: none"> 市内12施設とともに、5月7日～5月22日まで、ミュージアムウィークを実施した。 	目標どおり達成できた。	評定 A	自主企画展について、文学館や漫画ミュージアムなど市内施設との連携を継続して検討する。
		③ 北九州芸術劇場と連携し、当館コレクションを活用した演劇講演を実施する。	<ul style="list-style-type: none"> 北九州芸術劇場とのコラボレーション演劇第四弾となる公演「モネ、逆さまの睡蓮」を開催した。 全8回 433人 			
		④ 近隣美術館等との交流・連携を図る。	<ul style="list-style-type: none"> 福岡市美術館と共同で両館のコレクションを巡回する「夢の美術館 めぐりあう名画たち」展を開催した。 県内の美術館・博物館で組織する館長連絡協議会において、交流・連携を深めた。 福岡県博物館協議会において、交流・連携を深めた。 			
					総合評定 A	

(評価) A：大変良い B：概ね良い C：やや悪い D：大変悪い

北九州市立美術館運営評価シート

評価項目E：広報、情報発信

計 画		実 施		検 証		今後の対策
具体的な取組（事務事業）	評価指標（点検項目）	目標（個別事務事業）	実 績	自己評価	課題・原因	
展覧会、ワークショップなどの美術館事業の成果を情報発信	美術館事業の情報発信状況 ・ ホームページへの掲載状況 ・ 広報誌への掲載状況	① 展覧会、ワークショップの成果など、美術館の活動についてホームページや印刷物等を活用して情報発信する。	<ul style="list-style-type: none"> ホームページでは、展覧会の状況や、ワークショップの開催案内などを随時発信。 『北九州の芸術文化情報マガジン「CulCul・かるかる」』や友の会会報誌『森の小径』において、ワークショップの成果や報告などを発信。 フェイスブック、ツイッターや特設ホームページの開設により、展覧会情報を発信。 	目標どおり達成できた。	評価 A	
多様な広報媒体を活用した展覧会のPR	<ul style="list-style-type: none"> 情報誌、マスコミに取り上げられた回数 テレビCMや屋外ビジョンの活用状況 	② 展覧会について、ポスターやチラシの作成、ホームページ、新聞広告、情報誌などに掲載する。	<ul style="list-style-type: none"> 展覧会が新聞、雑誌等に取り上げられた件数：622件 ポスターやチラシの作成、ホームページ、新聞や雑誌への掲載のほか、ツイッターやフェイスブックにより広報。 『CulCul』へ毎月1回学芸員による展覧会及び作品紹介等を掲載。また、『森の小径』や市政だより等により広報。 	目標どおり達成できた。	評価 A	
		③ 企画展について視聴覚に訴える展覧会のPR強化策として、テレビCMや屋外ビジョンを積極的に活用する。	<ul style="list-style-type: none"> 企画展共催社によるテレビCMを流すほか、小倉駅JAM広場の大型ビジョンやリバーウォーク壁面の大型ビジョンを活用して動画によるPRを実施 筑豊電鉄の車内液晶テレビでも広報を実施 西鉄天神高速バスターミナルのデジタルサイネージの活用 テレビの情報番組や、リバーウォークで開催されたイベントへ出演してのPRのほか、展覧会場での記念撮影イベントなどを実施 その他、各展覧会の特性（時期やファン層）に応じた広報を実施 			
					総合評価	
					A	

(評価) A：大変良い B：概ね良い C：やや悪い D：大変悪い